

<u>科目名</u>	<u>科目担当代表教員</u>	<u>ページ数</u>
看護教育学	木口 幸子	2
看護研究Ⅱ	坂東 奈穂美	9
看護マネジメント論	坂東 奈穂美	23
国際看護学	榎本 常子	32
災害看護学	水野 愛子	39
老年看護学実習	辻 幸美	46
精神看護学実習	井上 仁美	55
臨床判断実習	小橋 拓真	64
看護実践マネジメント実習	坂東 奈穂美	73

2026 北海道文教大学 シラバス

<b>学部・学科</b>		人間科学部 看護学科					
<b>区分</b>		専門科目 基礎看護学					
<b>科目名</b>		看護教育学				<b>ナンバリング</b>	3424
<b>配当年次</b>	4年	<b>開講学期</b>	2026年度後期	<b>区分</b>	講義	<b>単位</b>	1
<b>担当教員</b>	木口 幸子						

**授業の位置づけ**

この科目は、ディプロマポリシーとして、学習への主体性を有し、自律的な行動ができる専門職者として研鑽し続ける基本的能力を身につけることを目指す。また、社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけることを目指す。加えて、この科目は、カリキュラム全体の外観の必要性があるため、教養科目、専門基礎科目、専門基礎科目、専門科目の全ての科目と関連する。

**授業の概要**

看護教育学とは何かを理解し、わが国における看護教育制度の歴史的変遷と今日の課題を学ぶ。これらを通して、カリキュラムの編成過程、教授＝学習過程、教育評価について把握し、専門職として発展するために、研究成果を活用しながら、大学における看護学を学ぶ意義を考える

**到達目標**

1. 看護教育学の概念を理解し、わが国の看護教育の意義と歴史の変遷を概観する。
2. わが国の看護教育制度の現状と課題を理解する。
3. 看護教育におけるカリキュラムの概要を理解し、授業展開・教育評価の基本を理解する。

### 授業の方法

パワーポイント及び動画を使用する。  
グループワークを取り入れ、ディスカッション形式も取り入れる。

### ICT活用

動画を活用

### 実務経験のある教員の教育内容

修士課程において看護教育学を専攻し、看護教育学について幅広い知識を有している。この経験を活かして看護教育学について授業を行う。

### 課題に対するフィードバックの方法

コメントを記載し、フィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>ガイダンス 看護教育学の定義と関連用語を学ぶ</p>	<p>看護教育学、看護学教育学の違いを調べる。 (90分)</p>	<p>テキスト第1章を読み、A4版一枚要約する。(90分)提出①</p>
<p>担当教員 木口 幸子</p>			
<p>第2回</p>	<p>わが国の看護教育の制度の現状と歴史の変遷を学ぶ</p>	<p>わが国の看護教育制度について調べる。 (90分)</p>	<p>テキスト第2章のIとIIを読み、A4版用紙1枚にまとめる。 (90分)提出②</p>
<p>担当教員 木口 幸子</p>			
<p>第3回</p>	<p>わが国の看護教育制度を通して、今日的な課題を学ぶ</p>	<p>第2回目の事後学習について説明できるように準備する(90分)</p>	<p>わが国の看護基礎教育の現状と課題についての意見をA4版1枚にまとめる。提出③ (90分)</p>
<p>担当教員 木口 幸子</p>			

<p>第4回</p>	<p>看護教育におけるカリキュラムの編成を学ぶ</p>	<p>テキストp165～189を読む</p>	<p>自身が学んだ大学のカリキュラムについてA4版1枚にまとめる。提出④(90分)</p>
<p>担当教員 木口 幸子</p>			
<p>第5回</p>	<p>大学における学習の目的と指定規則について学ぶ 大学において看護学を学ぶ意義を確認する</p>	<p>テキスト第2章IV、Vを読む(90分)</p>	<p>大学の目的、指定規則を背景にわが国で起きている看護基礎教育の課題をA4版用紙1枚にまとめる。(90分)提出⑤</p>
<p>担当教員 木口 幸子</p>			
<p>第6回</p>	<p>看護教育における授業展開を学び、教授＝学習過程の意味を学ぶ</p>	<p>入学時から学んだ講義演習実習について、困難だったこと、克服できたことを考えてくる。(90分)</p>	<p>テキスト第5章Ⅱを読み、A4版用紙1枚にまとめる(90分)提出⑥</p>
<p>担当教員 木口 幸子</p>			

第7回	看護教育における教育評価について学ぶ	入学時から現在まですべての科目から受けた評価について自己分析する。(90分)	テキストp200～207を読み、A4版用紙1枚にまとめる(90分)提出⑦
担当教員	木口 幸子		
第8回	実習における授業展開を学ぶ 専門職の意味を学び、看護専門職として発展するために 研究成果の意味と活用を学ぶ まとめ	テキストp350～369を読んでくる(90分)	最終レポートに取り掛かる(120分)
担当教員	木口 幸子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	提出物70点(10点×7回) 最終レポート30点
その他	0	

**教科書**

杉森みど里, 舟島なをみ(2024). 看護教育学 第8版, 医学書院, 東京.

**参考文献**

舟島なをみ監修(2024):看護実践・教育のための測定用具ファイル,第4版, 医学書院,東京  
グレッグ美鈴、池西悦子編(2023):看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う, 南江堂、東京

**履修条件・留意事項等**

特になし

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

<b>学部・学科</b>		人間科学部 看護学科					
<b>区分</b>		専門科目 看護の統合と実践					
<b>科目名</b>		看護研究Ⅱ				<b>ナンバリング</b>	4702
<b>配当年次</b>	4年	<b>開講学期</b>	2026年度前期	<b>区分</b>	演習	<b>単位</b>	2
<b>担当教員</b>	板東 奈穂美、小堀 ゆかり、高岡 哲子、井上 仁美、尾形 裕子、木口 幸子、多賀 昌江、鹿内 あずさ、福土 晴佳、辻 幸美、藤長 すが子、小橋 拓真、菅原 美保、竹之内 優美、藤村 恵理子、渡辺 一代、証本 常子、古沢 幸子、佐藤 洋子、赤坂 浩子、初見 暁子、横山 佳世、水野 愛子、高橋 洋介						

**授業の位置づけ**

本学科のディプロマポリシー「科学的思考と創造的思考を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力」を身につけるための科目である。。また、「看護研究Ⅰ」からつながる科目であり、「看護の統合と実践」分野に含まれる。

**授業の概要**

これまでの講義・演習、実習での経験から抱いた興味・関心や疑問(研究動機)に基づき、研究課題(研究テーマ)を明確化する。見出した研究課題について、「看護研究Ⅰ」で学修した知識を用いて、研究計画書を作成する技能を習得する。探究することを通して、看護研究の意義や看護学への理解を深める。また、研究者としての研究倫理や態度、共同で研究を進めるうえでのマナーやルールを身につける。

**到達目標**

1. 自分が持った関心や疑問(研究動機)から研究課題(研究テーマ)を明らかにすることができる。
2. 研究課題に関する文献検索と文献のクリティークを行い、その結果を文献カードにまとめることができる。
3. 共同で研究課題にふさわしい研究デザインを設計することができる。
4. 共同で所定の様式に従った研究計画書を作成することができる。
5. 共同で最終成果を発表することができる。
6. 計画書作成の過程に、自主的、建設的、協力的な態度で参加することができる。

**授業の方法**

少人数のグループに分かれて、ゼミ形式で進める。担当教員より、研究の背景・研究動機・研究目的・文献検討・研究方法・倫理的配慮について指導を受けながら、自分たちが関心を持っている研究課題について、グループで研究計画書を作成する。研究計画をより洗練させるため、計画書の作成途中で中間報告会を開催し、他の学生や教員からの意見をもらう。最後に研究計画書報告会で発表し、抄録集にまとめ、看護研究についての学びを深める。

**ICT活用**

研究倫理については、eラーニングを用いて学ぶ。

**実務経験のある教員の教育内容**

担当教員は看護職の勤務経験を活かし、看護研究について指導を行う。

**課題に対するフィードバックの方法**

研究計画書の作成過程で、口頭もしくは研究計画書へのコメントによりフィードバックを行う。中間報告会や研究計画書発表会では、質疑応答の時間にフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	<p>【科目ガイダンス】 グループワーク 各自が関心を寄せている研究疑問を持ち寄り、グループ内で発表し、グループとして取り組む研究課題と、今後の方向性について討議する。 看護研究Ⅱの進め方について担当教員と相談する。</p>	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第2回	<p>グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う</p>	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第3回	<p>グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う</p>	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			

<p>第4回</p>	<p>グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う</p>	<p>課題整理(30分)</p>	<p>持ち帰った課題の検討(30分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第5回</p>	<p>グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う</p>	<p>課題整理(30分)</p>	<p>持ち帰った課題の検討(30分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第6回</p>	<p>グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う</p>	<p>課題整理(30分)</p>	<p>持ち帰った課題の検討(30分)</p>
<p>担当教員</p>			

第7回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第8回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第9回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			

第10回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第11回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第12回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			

第13回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第14回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第15回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			

<p>第16回</p>	<p>中間報告会 原則として2領域以上で合同で行う。運営は学生主体で行う。</p>	<p>課題整理(30分)</p>	<p>中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第17回</p>	<p>グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。</p>	<p>課題整理(30分)</p>	<p>中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第18回</p>	<p>グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。</p>	<p>課題整理(30分)</p>	<p>中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第19回</p>	<p>グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。</p>	<p>課題整理(30分)</p>	<p>中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第20回</p>	<p>グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。</p>	<p>課題整理(30分)</p>	<p>中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第21回</p>	<p>グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。</p>	<p>課題整理(30分)</p>	<p>中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第22回</p>	<p>グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。</p>	<p>課題整理(30分)</p>	<p>中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第23回</p>	<p>グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。</p>	<p>課題整理(30分)</p>	<p>中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第24回</p>	<p>グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。</p>	<p>課題整理(30分)</p>	<p>中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)</p>
<p>担当教員</p>			

<p>第25回</p>	<p>グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。</p>	<p>課題整理(30分)</p>	<p>中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第26回</p>	<p>グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。</p>	<p>課題整理(30分)</p>	<p>中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第27回</p>	<p>グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。</p>	<p>課題整理(30分)</p>	<p>中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)</p>
<p>担当教員</p>			

第28回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第29回	研究計画書発表会 座長・タイムキーパー・マイク係りなどを学生が担い、運営する。	課題整理(30分)	発表会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第30回	グループワーク 研究計画書・抄録集を完成させる。	課題整理(30分)	振り返り(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	研究計画書:60%(グループ評価) 中間報告会:10%(グループ評価/個人評価) 最終発表会:10%(グループ評価/個人評価) 参加態度:20%(個人評価)
その他	0	
<b>教科書</b>		
なし		
<b>参考文献</b>		

授業の期間内に必要時、提示する。

**履修条件・留意事項等**

主体的に、かつ計画的に取り組むこと。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		看護マネジメント論				ナンバリング	4660
配当年次	4年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	坂東 奈穂美、水野 愛子						

授業の位置づけ

看護学科のディプロマ・ポリシー「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力」を身につけ、「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかた看護師の役割を理解できている」に関連した科目である。  
 ②他の科目との前後のつながり:この科目は「リスクマネジメント論」からつながっており、「看護実践マネジメント実習」へつながる。

授業の概要

看護の質を保障するための組織のあり方やシステム、人材育成の視点から看護マネジメントを学ぶ。具体的には、対象が必要とする医療サービスを受けるための組織構造、他職種と看護職との連携について、事例を通して理解する。質を担保し安全な看護ケアを継続して提供するために、組織およびチームのメンバーとして求められる基本的な能力を理解したうえで、看護業務スケジュールや自己目標の立案について体験的に学ぶ。さらに、専門職業人としての責任を理解し、働き続けるためのセルフマネジメントについて考察する。

到達目標

- 1.医療施設の組織構造と看護部門の位置づけについて説明できる。
- 2.病院理念や行動指針と、看護部理念や看護単位の目標との関連を説明できる。
- 3.看護ケアの質の保障するため、環境・物品・財務・人材・情報のマネジメントについて説明できる。
- 4.継続して安全に看護ケアを提供するため、看護チームとしての協働や日常業務のマネジメントについて説明できる。
- 5.看護師が働き続けることを目指したセルフマネジメントを説明できる。
- 6.医療制度と看護職に関連した法律について説明できる。

**授業の方法**

パワーポイントとハンドアウトを用いた講義と実践的な演習により進める。

**ICT活用**

課題提出に、Google Classroomを活用する。

**実務経験のある教員の教育内容**

看護師として急性期病院での勤務経験を活かし授業を行う(坂東)。  
 看護師・看護管理職として高度急性期病院での勤務経験を活かし授業を行う(水野)。

**課題に対するフィードバックの方法**

フィードバックとして、提出された課題に対し、授業内で解説する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>授業ガイダンス 【マネジメントとは何か】 看護管理学とは何か、看護ケアのマネジメントと看護サービスのマネジメントの違い、看護のマネジメントが行われる場、看護におけるマネジメントの考え方について説明する</p>	<p>教科書第1章(P2-15)を読み、内容を理解する(90分)</p>	<p>授業内容を自分のノートにまとめる。事後課題①(90分)</p>
<p>担当教員 坂東 奈穂美</p>			
<p>第2回</p>	<p>【マネジメントに必要な知識と技術】 マネジメントに必要な基本的な知識として、マネジメントプロセスの考え方、経営資源(人、サービス、カネ、情報)PDCAサイクルについて説明する。組織を調整するために必要な技術として、リーダーシップやメンバーシップについて説明する。</p>	<p>教科書の第5章(P138-162)を読み、内容を理解する(90分)</p>	<p>授業内容を自分のノートにまとめる。事後課題②(90分)</p>
<p>担当教員 坂東 奈穂美</p>			
<p>第3回</p>	<p>【看護サービスを提供するためのシステム】 組織理念・行動目標、組織形態の種類と特徴、組織図に基づく分業、目標管理について説明する。看護部門における看護単位の考え方や看護提供体制についても説明する。 小テスト①</p>	<p>教科書第4章(P80-98)を読み、内容を理解する(90分)</p>	<p>小テストで間違った問題に関する事項を復習する。授業内容をノートにまとめる。事後課題③(90分)</p>
<p>担当教員 坂東 奈穂美</p>			

<p>第4回</p>	<p>【看護サービスのマネジメント②】 医療施設の環境のマネジメントとして、施設の設備、患者の療養環境、看護師の作業環境について説明する。 物品(モノ)のマネジメントとして、院内の物流システム、医薬品や医療機器の管理、医療廃棄物の管理について説明する。</p>	<p>教科書第4章(P112-123)を読み、内容を理解する(90分)</p>	<p>授業内容を自分のノートにまとめる。事後課題④(90分)</p>
<p>担当教員 坂東 奈穂美</p>			
<p>第5回</p>	<p>【看護サービスのマネジメント③-1】 物財的資源(カネ)のマネジメントとして、医療保険制度や診療報酬の仕組み、医療機関の収益や費用、経営の指標について概説する。 小テスト②</p>	<p>教科書第4章(P123-127)第6章(P183-190)を読み、内容を理解する(90分)</p>	<p>小テストで間違った問題に関する事項を復習する。授業内容を自分のノートにまとめる。事後課題⑤(90分)</p>
<p>担当教員 坂東 奈穂美</p>			
<p>第6回</p>	<p>【看護サービスのマネジメント③-2】 病院内で取り扱われる情報のマネジメント、および組織のリスクマネジメントとして災害時のマネジメントについて説明する。また、医療におけるサービスの質の評価について説明する。</p>	<p>教科書第4章(P128-140)を読み、内容を理解する(90分)</p>	<p>授業内容を自分のノートにまとめる。事後課題⑥(90分)</p>
<p>担当教員 水野 愛子</p>			

<p>第7回</p>	<p>【看護職としてのセルフマネジメント①】 ゲストスピーカー:看護職に対するキャリア支援の実際</p>	<p>教科書第3章(P66-72)を読み、内容を理解する(90分)</p>	<p>レポート課題:自分のキャリアを考えるを期限までに提出する。(90分)</p>
<p>担当教員 水野 愛子</p>			
<p>第8回</p>	<p>【看護サービスのマネジメント④】 病院における人材フロー、看護職員の労務管理、業務量のマネジメントについて説明する。 小テスト③</p>	<p>教科書第4章(P98-112)を読み、内容を理解する(90分)</p>	<p>小テストで間違った問題に関する事項を復習する。授業内容を自分のノートにまとめる。事後課題⑦(90分)</p>
<p>担当教員 水野 愛子</p>			
<p>第9回</p>	<p>【看護ケアのマネジメント①-1】 病院における看護ケアのマネジメントプロセスとして、院内感染対策、地域と連携するために活躍する医療に関連する職種や、他施設や介護サービスとの連携に向けた退院調整について説明する。</p>	<p>教科書第2章(P18-24,P38-41,P43-51)を読み、内容を理解する(90分)</p>	<p>授業内容を自分のノートにまとめる。事後課題⑧(90分)</p>
<p>担当教員 坂東 奈穂美</p>			

<p>第10回</p>	<p>【看護ケアのマネジメント①-2】                  師長業務、リーダー業務の実際を知ることで、看護の継続(勤務体制、病棟内での連携、外来と病棟の連携)について学ぶ。</p>	<p>看護チームにおける看護師長およびリーダー業務について調べる。(90分)</p>	<p>授業内容を自分のノートにまとめる。事後課題⑨(90分)</p>
<p>担当教員 坂東 奈穂美</p>			
<p>第11回</p>	<p>【看護ケアのマネジメント②-1】                  メンバー業務として複数の対象を担当する場合に必要なとされる、患者の把握し方など、日常業務のマネジメントについて説明する。そのために必要な優先順位の判断、タイムマネジメントについて学ぶ。                  小テスト④</p>	<p>看護チームにおけるメンバー業務について調べる。(90分)</p>	<p>授業内容を自分のノートにまとめる。事後課題⑩(90分)</p>
<p>担当教員 坂東 奈穂美</p>			
<p>第12回</p>	<p>【看護ケアのマネジメント②-2】                  ワーク:日常業務の組み立て                  複数の患者を担当した場合の行動計画を立案し体験的に学習する。その日の病状の把握・患者のスケジュール・患者の要望から、優先順位を判断し、行動計画を立案する体験から業務の組み立て方を学ぶ。</p>	<p>これまでの実習で自分が行ってきた行動計画の立案方法について復習しておく(90分)</p>	<p>ワーク課題①を期限までに提出する(90分)</p>
<p>担当教員 水野 愛子</p>			

<p>第13回</p>	<p>【看護ケアのマネジメント③-2】 ワーク:多重課題に直面した時、どのように対応するのか考 える</p>	<p>日常の場面で生じた多重課題 に対し、自分がどのように対処し ているのかについて振り返りつ ておく(90分)</p>	<p>ワーク課題②を期限までに提出 する(90分)</p>
<p>担当教員 坂東 奈穂美</p>			
<p>第14回</p>	<p>【セルフマネジメント】 看護を提供する仕事の特徴としての感情労働や、ストレス に対するセルフマネジメントについて説明する。患者満足 度と職員満足度、看護職の多様な働き方、ワークライフバラ ンスについて説明する。</p>	<p>教科書第3章(P71-76)を読み、 内容を理解する(90分)</p>	<p>授業内容を自分のノートにまと める。事後課題⑩(90分)</p>
<p>担当教員 坂東 奈穂美</p>			
<p>第15回</p>	<p>【看護マネジメントの実際】 病院を取り巻く社会状況と看護部長の仕事</p>	<p>教科書第6章(P166-193)を読み 、内容を理解する(90分)</p>	<p>授業内容を自分のノートにまと める。事後課題⑪(90分)</p>
<p>担当教員 坂東 奈穂美</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事後課題:36%(3点×12回) 授業内の小テスト:34%(8%×3回、10%×1回) レポート課題:10%(各10%×1回) ワーク課題::20%(各10%×2回)
その他	0	

**教科書**

系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践① / 上泉和子他 / 医学書院./2023

**参考文献**

ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 / 吉田千文他 / メディカ出版/2023

**履修条件・留意事項等**

実習前の集中講座で2講連続で週3回となるため、休講・補講の連絡に注意し、授業スケジュールを確認すること。  
看護実践マネジメント実習に関連するワークを行うため、欠席しないように体調を整えること。

**備考欄**

## 2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		国際看護学				ナンバリング	4662
配当年次	4年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	榎本 常子、榎本 常子						

## 授業の位置づけ

本科目はディプロマ・ポリシー「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている。(思考・判断・表現)」、「看護の対象となる人々とコミュニケーション能力を活用して円滑な関係を構築し、対象理解を深める能力を身につけている。(知識・技術)」と特に関係がある科目である。また、「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。(知識・技能)」とも関係する。看護の統合と実践について学ぶための科目として位置づけられている。

## 授業の概要

自然災害や戦争などで栄養失調や感染症に苦しむ地域がある一方で、慢性的な平和の中で肥満や生活習慣病が問題になっている国もある等、地球上の地域格差は拡大している。また、経済社会のグローバル化により、国際間の交流は、人・物ともに日常化し、国を超えて流行する感染症や環境汚染の広がりを防ぎ、健康の地域格差を解消するために国際的な連携や協力が益々重要になっている。そこで、本科目では、グローバルな視点を養うため、JICAやWHOなどの国際機関、NGO、個人がこれら諸問題にどう関わっているかを具体的事例に触れながら理解し、異文化における健康及び保健の価値観を身につける。

## 到達目標

1. グローバルヘルスにおける重要な概念について説明できる。
2. 国際社会における保健・医療・福祉の現状と課題について説明できる。
3. 国際保健医療分野における国際協力機関と仕組みについて説明できる。
4. 異文化理解の重要性を理解し、国際保健について説明できる。
5. 多様な文化的背景を持つ人々の、生活支援における看護の役割について説明できる。

### 授業の方法

パワーポイントと配信する講義資料、視聴覚メディア(DVD)を用いて講義形式ですすめる。  
 事前課題、ミニレポート、理解度確認テストを行う。  
 コメントシートを用いて講義内容を振り返り、その内容をクラスで共有する。

### ICT活用

Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。

### 実務経験のある教員の教育内容

国境なき医師団における看護師としての海外派遣活動の経験を活かし、国際保健医療の現場における実践的視点を踏まえた内容について講義を行う。

### 課題に対するフィードバックの方法

コメントシートの内容をクラスで共有し解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>コースガイダンス 国際保健医療における主な概念について学び、国際社会における保健・医療・福祉の現状と課題について理解する</p>	<p>本またはインターネットを通じて国際保健医療について調べる(90分)</p>	<p>講義資料をもとに復習する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第2回</p>	<p>国際保健医療分野における国際協力機関と仕組みとして、国際機関とその役割、具体的な活動について理解する 世界保健機関(WHO)、他</p>	<p>本またはインターネットを通じてWHOについて調べる(90分)</p>	<p>講義資料をもとに復習する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第3回</p>	<p>国際保健医療分野における国際協力機関と仕組みとして、国際機関とその役割、具体的な活動について理解する 国連児童基金(UNICEF)、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)、他</p>	<p>本またはインターネットを通じてUNICEF、UNHCRについて調べる(90分)</p>	<p>講義資料をもとに復習する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			

第4回	国際保健医療分野における国際協力機関と仕組みとして、政府機関とその役割について理解する 政府開発援助(ODA)、国際協力機構(JICA)	本またはインターネットを通じて ODA、JICAについて調べる(90分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員			
第5回	政府開発援助(ODA)、国際協力機構(JICA)における具体的な活動について理解する 海外における看護活動に関するゲストスピーカーの講話	本またはインターネットを通じて ODA、JICAの具体的な活動事例について調べる(90分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員			
第6回	理解度確認テスト1 国際保健医療分野における国際協力機関と仕組みとして、非政府組織(NGO)とその役割、具体的な活動について理解する 世界の医療団、国境なき医師団、他	本またはインターネットを通じて 国際NGO、世界の医療団、国境なき医師団について調べる(90分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員			

<p>第7回</p>	<p>国際保健医療分野における国際協力機関と仕組みとして、国際赤十字・赤新月運動とその役割、具体的な活動について理解する 多様な文化的背景を持つ人々への支援と健康課題について理解する</p>	<p>本またはインターネットを通じて国際赤十字・赤新月運動について調べる 本またはインターネットを通じて多様な文化的背景を持つ人々への支援と健康課題について調べる(90分)</p>	<p>講義資料をもとに復習する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>第8回</p>	<p>多様な文化的背景を持つ人々への支援と健康課題への理解を踏まえ、看護師の役割と責務について理解する 事例を通じて多様な文化的背景を持つ人々への看護について考える 理解度確認テスト2</p>	<p>本またはインターネットを通じて多様な文化的背景について調べ、看護師の役割について考える(90分)</p>	<p>講義資料をもとに復習する(90分)</p>
<p>担当教員</p>			
<p>成績評価の方法</p>			
<p>区分</p>	<p>割合(%)</p>	<p>内容</p>	
<p>定期試験</p>	<p>0</p>	<p>なし</p>	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事前課題(18%) ミニレポート(12%) 理解度確認テスト(70%)
その他	0	なし
<b>教科書</b>		
なし		
<b>参考文献</b>		
国際看護学入門 第2版(2018)、日本国際看護学会編、医学書院 看護の統合と実践④ 国際化と看護(2025)、大橋一友他、メディカ出版		
<b>履修条件・留意事項等</b>		

事前課題、ミニレポートの提出遅延や未提出は減点となる。  
評価対象物への不正行為は、D判定となる場合がある。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		災害看護学				ナンバリング	4664
配当年次	4年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	水野 愛子、水野 愛子						

授業の位置づけ

本科目は、「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている」「看護の専門知識を活用して、健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている」というディプロマポリシーを中心に展開される。「看護の統合と実践」に位置付けられており、専門基礎科目と各看護学領域の専門科目からつながる。災害に対する必要な知識、及び、医療者の対応の基本を修得する。

授業の概要

自然災害と交通事故を代表とし、発生する可能性は低くとも、大きな犠牲が生じる危険がある災害について、私たちは日ごろから蓄えと教育を行わなければならない。この講義では医療者として災害にどう立ち向かうかを中心に論ずる。

到達目標

- 1) 災害看護の概要について述べることができる。
- 2) 災害時の安全管理、指揮命令系統の考え方や実際について述べるができる。
- 3) 災害サイクルと各期の特徴及び、各期で求められる医療看護支援について述べるができる。
- 4) 被災者の被災者の生活と場に応じた医療・看護支援について述べるができる。
- 5) 授業で学習した知識を統合し、被災者に必要な医療・看護支援について論じることができる。
- 6) グループワークにて他者と協調し、災害サイクルに応じた被災者に必要な医療・看護支援について討議することができる。

**授業の方法**

PowerPoint等のスライド、資料を用いた講義とワークによる演習を実施する。

**ICT活用**

課題提出等にGoogle Classroomを活用する。

**実務経験のある教員の教育内容**

科目担当は看護師・看護管理者として高度急性期病院での勤務経験がある。  
 ゲストスピーカーは災害看護支援コミュニケーション(EZO看)に属し、災害看護について経験豊富である。

**課題に対するフィードバックの方法**

課題についてのフィードバックは、授業中に全体へ行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>「災害看護を理解するために必要な知識を学ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害看護とは</li> <li>・災害の定義と歴史</li> <li>・災害に関する法律と医療体制</li> <li>・災害サイクルと災害医療の特徴</li> <li>・災害関連疾患と災害関連死</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト該当箇所を読む。</li> <li>・国内外で起きている災害について何があるか挙げる。</li> <li>・災害における看護とは何か考える。(90分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義資料、テキストを再度読む。</li> <li>・授業内容をノートにまとめる。</li> <li>・授業後ワーク課題に取り組む。(90分)</li> </ul>
<p>担当教員 水野 愛子</p>			
<p>第2回</p>	<p>「災害時に必要な技術を学ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CSCATTについて</li> <li>・CBRNE災害とマスギャザリングについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト該当する箇所を読む。(90分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義資料、テキストを再度読む。</li> <li>・授業内容をノートにまとめる。</li> <li>・授業後ワーク課題に取り組む。(90分)</li> </ul>
<p>担当教員 水野 愛子</p>			
<p>第3回</p>	<p>「災害発生時に展開される看護を学ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に配慮を必要とする人々とその支援</li> <li>・災害各期の看護支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト該当箇所を読む。(90分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義資料、テキストを再度読む。</li> <li>・授業内容をノートにまとめる。</li> <li>・授業後ワーク課題に取り組む。(90分)</li> </ul>
<p>担当教員 水野 愛子</p>			

<p>第4回</p>	<p>「現場における災害時支援に必要な実践的知識・看護技術について学ぶ」                  ・災害サイクルの時期、災害の特徴に合わせた医療及び看護支援について                  ・災害現場における、こころのケアの実際について</p> <p>ゲストスピーカー                  太田尚伸</p>	<p>・テキスト該当箇所を読む。                  (90分)</p>	<p>・講義資料、テキストを再度読む。                  ・授業内容をノートにまとめる。                  ・授業後ワーク課題に取り組む。                  (90分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>水野 愛子</p>		
<p>第5回</p>	<p>「現場における災害時支援に必要な実践的知識・看護技術について学ぶ」                  ・災害サイクルの時期、災害の特徴に合わせた医療及び看護支援について                  ・災害現場における、こころのケアの実際について</p> <p>ゲストスピーカー                  太田尚伸</p>	<p>・テキスト該当箇所を読む。                  (90分)</p>	<p>・講義資料、テキストを再度読む。                  ・授業内容をノートにまとめる。                  ・授業後ワーク課題に取り組む。                  (90分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>水野 愛子</p>		
<p>第6回</p>	<p>「災害現場で展開される看護の実際を学ぶ①」                  ・災害時における看護の実際と安全管理                  ・支援と受援について                  ・災害への備え</p> <p>ゲストスピーカー                  田中かおり</p>	<p>・テキスト該当箇所を読む。                  (90分)</p>	<p>・講義資料、テキストを再度読む。                  ・授業内容をノートにまとめる。                  ・授業後ワーク課題に取り組む。                  (90分)</p>
<p>担当教員</p>	<p>水野 愛子</p>		

<p>第7回</p>	<p>「災害現場で展開される看護の実際を学ぶ②」 グループワーク演習 ・災害における看護職の役割についての理解</p> <p>ゲストスピーカー 田中かおり</p>	<p>・テキスト該当箇所を読む。 (90分)</p>	<p>・講義資料、テキストを再度読む。 ・授業内容をノートにまとめる。 ・授業後ワーク課題に取り組む。 (90分)</p>
<p>担当教員 水野 愛子</p>			
<p>第8回</p>	<p>まとめの試験 まとめの試験の解説、ワーク課題のフィードバック</p>	<p>・まとめのノートを使って、第1回から第7回までの授業内容の振り返りを行う。 (90分)</p>	<p>・授業内容の振り返り、必要か所の再学習を行う。 ・レポート課題を期限までに提出する。 (90分)</p>
<p>担当教員 水野 愛子</p>			
<p>成績評価の方法</p>			
<p>区分</p>	<p>割合(%)</p>	<p>内容</p>	
<p>定期試験</p>	<p>0</p>		

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>授業後ワーク課題10%×4回(第1-2回後、第3回後、第4-5回後、第6-7回後)=40%、レポート課題30%×1回=30%、まとめの試験30%×1回=30%</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p><b>教科書</b></p>		
<p>太田晴美、立垣祐子編(2025). Basic&amp;Practice 一災害看護学 改訂第2版, 学研.</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>酒井明子、増田園恵(2023). 看護学テキストNice 災害看護 改訂第4版, 南江堂.</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		

評価対象物において代筆や盗用等の不正行為があった場合にはD判定となる場合があります。

備考欄

## 2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		老年看護学実習				ナンバリング	4814
配当年次	4年	開講学期	2026年度前期	区分	実習	単位	2
担当教員	辻 幸美、高岡 哲子、初見 温子						

## 授業の位置づけ

本科目は特にDP「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。」「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。」「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている。」に関連した老年看護学領域に位置づけられている。老年看護学領域に関連した全ての学習の集大成として、今まで得た知識を統合し、老年者を対象とした看護を実践的に学ぶ。

## 授業の概要

本科目は、看護の基盤となる問題探究能力と問題解決能力を活用して、看護過程の展開に必要な基本的な能力を養うため、高齢者を理解し、看護実践に活かせるよう、自らの援助や既存の理論、科学的根拠を基にして、臨床判断を修得する。学習内容は、健康な高齢者から生活に支障のある高齢者と共に過ごすことで、対象理解を深める。また、その生活の中から臨床判断を身に付ける。

## 到達目標

1. 老年者の尊厳を守る意味を考察できる。
2. 老年者を取り巻く生活環境(家族を含む)を考察できる。
3. 認知症高齢者の生活からその人らしい生活支援を考察できる。
4. 看護の複雑な場面や関係性の中で経験した看護実践をふりかえり、自らの看護観や人間観を精選する。
5. 自らの看護的思考をわかりやすく他者に伝える。

**授業の方法**

詳細については老年看護学実習要項を参照

**ICT活用**

Google classroomの使用

**実務経験のある教員の教育内容**

高岡は総合的な病院で、辻は脳神経外科系病院で、初見は循環器病棟、訪問看護ステーションでの勤務経験を活用して実習指導を行う。

**課題に対するフィードバックの方法**

提出された記録は全て確認して返却する。また、必要時、個人指導を行なう。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	詳細については老年看護学実習実習要項を参照	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第2回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第3回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		

第4回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第5回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第6回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		

第7回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第8回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第9回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		

第10回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第11回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第12回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		

第13回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第14回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
第15回	なし	なし	なし
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	なし
その他	100	詳細については老年看護学実習実習要項を参照

**教科書**

- ①北川公子ほか/系統看護学講座老年看護学/医学書院
- ②上田敏ほか/ICFの理解と活用 /きょうざれん
- ③山田律子ほか/生活機能から見た老年看護過程＋病態・生活機能関連図/医学書院

**参考文献**

必要時提示する。

**履修条件・留意事項等**

オリエンテーションで提示する。  
提出物の類似、代筆、虚偽の報告などは全て不正とみなす。

**備考欄**

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		精神看護学実習				ナンバリング	4820
配当年次	4年	開講学期	2026年度前期	区分	実習	単位	2
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子						

授業の位置づけ

DPの「看護の対象となる人々とコミュニケーション能力を活用して円滑な関係を構築し、対象理解を深める能力を身につけている。」「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。」「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。」と特に関係がある科目である。また、「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている。」「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている。」「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。」「科学的思考と創造的思考を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身につけている。」と関係する科目である。精神障害をもつ人の理解を深め、看護実践をとおして、治療場面や療養生活の過程における看護の役割を理解し、基礎的な看護を実践する能力を養う。専門基礎科目、基礎看護学分野の科目、精神看護学の展開Ⅱからつながる科目であり、看護の統合と実践の科目につながる科目である。

授業の概要

精神科病棟で一人の患者を受け持ち、セルフケアについてのアセスメントを行うことで生活者としての理解を深め、その人が望む生活や生き方が実現できるような支援を考え実施・評価する。オレム・アンダーウッドのモデルを用いて精神障害をもつ人を多面的に理解し看護過程を展開する。精神障害をもつ人を一人の人として先入観なく接し、生きづらさに共感し寄り添うことで看護者として誠実で真摯な態度やあり方を学ぶ。またプロセスレコードを用いて援助的人間関係の技法を習得する。

到達目標

1. 精神障害をもつ人を全人的に理解したうえで対象者について述べることができる。
2. 援助的に人間関係を築き発展させることができる。
3. セルフケア能力に焦点を当てたアセスメントを行い、看護過程を展開することができる。
4. 精神障害をもつ人やその家族に対する、療養生活の支援方法、リハビリテーション活動 の実際を知り、多職種間の協働関係における看護者の役割・機能について自分の考えを述べるすることができる。
5. 学生としての役割および責務を果たす言動をとることができる。

**授業の方法**

精神看護学臨地実習要項に沿って学習を進める。  
 実習中にカンファレンスを実施し、積極的にディスカッションを行いながら、自身の考えを発言し自己開示をおこなう。  
 実習中または最後に学生によるプレゼンテーションを行い学びを共有する。  
 感染状況によっては臨地での実習が学内または遠隔に変更になることがある。その場合は、事前にお知らせする。

**ICT活用**

Google Classroomを随時使用して学習を進める。

**実務経験のある教員の教育内容**

本科目は精神保健医療において看護師の実務経験がある教員が担当する。

**課題に対するフィードバックの方法**

毎日の実習記録および看護過程の記録の指導は、提出後にそのつどコメントを教員が返し、カンファレンスの場では互いの議論をとおして、随時フィードバックを行う。また、臨地実習終了後に教員と評価面接を行い、実施および評価についてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>精神看護学実習要項参照                  臨地での実習前に学内でオリエンテーションを行い、実習への理解を深め準備をすることができる。                  精神看護専門看護師の方々がゲストスピーカーとして、実際の臨床における対象者とのコミュニケーションや妄想などの訴えがある際の対処などについてロールプレイングを行い、具体的に臨地での関係性をシミュレーションする。</p>		
<p>担当教員</p>	<p>井上 仁美、藤村 恵理子</p>		
<p>第2回</p>	<p>精神看護学実習要項参照</p>		
<p>担当教員</p>	<p>井上 仁美、藤村 恵理子</p>		
<p>第3回</p>	<p>精神看護学実習要項参照</p>		
<p>担当教員</p>	<p>井上 仁美、藤村 恵理子</p>		

<p>第4回</p>	<p>精神看護学実習要項参照</p>		
<p>担当教員 井上 仁美、藤村 恵理子</p>			
<p>第5回</p>	<p>精神看護学実習要項参照</p>		
<p>担当教員 井上 仁美、藤村 恵理子</p>			
<p>第6回</p>	<p>精神看護学実習要項参照</p>		
<p>担当教員 井上 仁美、藤村 恵理子</p>			

第7回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第8回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第9回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		

<p>第10回</p>	<p>精神看護学実習要項参照</p>		
<p>担当教員 井上 仁美、藤村 恵理子</p>			
<p>第11回</p>	<p>精神看護学実習要項参照</p>		
<p>担当教員 井上 仁美、藤村 恵理子</p>			
<p>第12回</p>	<p>精神看護学実習要項参照</p>		
<p>担当教員 井上 仁美、藤村 恵理子</p>			

第13回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第14回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第15回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	精神看護学実習要項を参照すること。 出席日数の3分の1以上の欠席および遅刻・早退がある場合は評価の対象とならないことがある。 実習記録物の提出は指示した期限内に提出している必要がある。 評価基準は実習目標の達成度(実習評価表)、実習記録、実習態度などから総合的に担当教員が評価する。
その他	0	なし。
<b>教科書</b>		
新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健 第5版 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 第5版		
<b>参考文献</b>		

宇佐美しおり 鈴木啓子 パトリシア・アンダーウッド:オレムのセルフケアモデル 事例を用いた看護過程の展開 第2版 ニューヴェルヒロカワ  
関連科目で使用したレジュメ等を活用する。そのほか適時、各自で文献を検索するなどして活用することが望ましい。

### 履修条件・留意事項等

精神看護学実習を履修するのに必要なすべての単位を修得していること。  
事前に行われる実習オリエンテーションでの説明や注意事項をよく理解し、実習要項を熟読して臨地実習に臨んでください。  
臨地実習は患者様はじめ、実習指導者や多くの方々の協力があつて行うことができます。  
欠席や遅刻・早退をすると患者様は非常に心配されたり自責感をもち病状が悪化することがあります。学生は実習前には十分、体調管理に注意し実習に専念できるよう準備してください。  
精神看護学実習は、対象者と1対1で真摯に誠実に向き合い、寄り添うことではじめて看護を提供し患者様に還元できます。  
臨地実習前に、精神看護専門看護師の方々がゲストスピーカーとして、実際の臨床における対象者とのコミュニケーションや妄想などの訴えがある際の対処などについてロールプレイングを行う。  
これらの学習をとおして、学生自身も自分を振り返り、成長ができるような実習にすることが望まれます。

### 備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		臨床判断実習				ナンバリング	4828
配当年次	4年	開講学期	2026年度前期	区分	実習	単位	2
担当教員	小橋 拓真、高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子						

授業の位置づけ

本実習では看護基礎専門科目を修了した看護4年生がこれまでの学びを活かし、治療場面や生活援助などの様々な看護場面で、臨床判断に必要な基礎的能力を養う。本学科のDPの「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。(思考・判断・表現)」「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。(知識・技能)」「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている。(知識・技能)」に関連する科目である。本科目は「看護臨床判断」からつながり、「看護実践マネジメント実習」へつながる科目である。

授業の概要

本科目は臨床判断に必要な基礎的能力を養うため、臨床推論が必要となる場面に着目して自ら行った看護上の判断を臨床判断の視点で再構成することで臨床判断を活用した振り返り方法を身につける。看護場面で臨床判断した経験を他者と共有し多角的な視点から検討することで、臨床判断をするために必要な能力について理解を深める。

到達目標

1. 対象者を統一的に把握し、看護師の看護行為を観察することを通じて臨床判断モデルのプロセスが理解できる。
2. 臨床判断モデルのプロセスを、自らの看護場面に適応できる。
3. 臨床判断場面を他者と共有し、多角的な視点から検討できる。
4. 看護学生としての役割・責務を果たすことができる。

**授業の方法**

臨床判断実習要項に沿って学習を進める。  
 臨地実習では、臨床指導者と訪室し、看護師より聞き取った判断内容を整理したり、自身の看護場面で自分の考えを聞いてもらったり、日々の振り返りでフィードバックしたりして、臨床判断の思考のプロセスを学ぶ。  
 実習中にカンファレンスを実施し、看護場面での臨床判断について他者と共有し、積極的にディスカッションをして多角的な視点から臨床判断の思考のプロセスを学ぶ。  
 実習中に学生によるプレゼンテーションを行い、学びを共有する。  
 感染状況によっては、臨地での実習が学内または遠隔に変更になることがある。その場合は、事前に通知する。

**ICT活用**

Google Classroomを適宜使用して学習を進める。

**実務経験のある教員の教育内容**

本科目は医療施設において、看護師の実務経験がある教員が担当する。

**課題に対するフィードバックの方法**

毎日の実習記録の指導は、提出後に教員がコメントを記載して返却し、カンファレンスでは、学生の報告や意見交換を通して随時フィードバックを行う。臨地実習終了後には、教員と個別評価面談を行い、評価内容についてフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	臨床判断実習要項参照		
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真		
第2回	臨床判断実習要項参照		
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真		
第3回	臨床判断実習要項参照		
担当教員	高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真		

<p>第4回</p>	<p>臨床判断実習要項参照</p>		
<p>担当教員 高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真</p>			
<p>第5回</p>	<p>臨床判断実習要項参照</p>		
<p>担当教員 高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真</p>			
<p>第6回</p>	<p>臨床判断実習要項参照</p>		
<p>担当教員 高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真</p>			

<p>第7回</p>	<p>臨床判断実習要項参照</p>		
<p>担当教員 高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真</p>			
<p>第8回</p>	<p>臨床判断実習要項参照</p>		
<p>担当教員 高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真</p>			
<p>第9回</p>	<p>臨床判断実習要項参照</p>		
<p>担当教員 高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真</p>			

<p>第10回</p>	<p>臨床判断実習要項参照</p>		
<p>担当教員 高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真</p>			
<p>第11回</p>	<p>臨床判断実習要項参照</p>		
<p>担当教員 高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真</p>			
<p>第12回</p>	<p>臨床判断実習要項参照</p>		
<p>担当教員 高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真</p>			

<p>第13回</p>	<p>臨床判断実習要項参照</p>		
<p>担当教員 高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真</p>			
<p>第14回</p>	<p>臨床判断実習要項参照</p>		
<p>担当教員 高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真</p>			
<p>第15回</p>	<p>臨床判断実習要項参照</p>		
<p>担当教員 高岡 哲子、木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、小橋 拓真</p>			
<p>成績評価の方法</p>			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	臨床判断実習要項を参照すること。 出席日数の3分の1以上の欠席および遅刻・早退がある場合は、評価の対象とならないことがある。 実習記録物の提出は指示した期間内に提出している必要がある。 評価基準は実習目標の達成度(実習評価表)、実習記録、実習態度などから総合的に担当教員が評価する。
その他	0	なし。
<b>教科書</b>		
なし。		
<b>参考文献</b>		

三浦友里子・奥裕美(2020)「臨床判断ティーチングメソッド」医学書院, 東京.

**履修条件・留意事項等**

なし.

**備考欄**

なし.

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		看護実践マネジメント実習				ナンバリング	4824
配当年次	4年	開講学期	2026年度前期	区分	実習	単位	2
担当教員	坂東 奈穂美、水野 愛子						

授業の位置づけ

看護学科のディプロマポリシーである「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力」を身につけ、「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解」するための科目である。「看護マネジメント論」および「臨床判断実習」からつながる科目であり、専門科目の「成人看護学」「老年看護学」「精神看護学」「地域・在宅看護論」の分野からつながる科目である。

授業の概要

本科目では、看護チームの組織・機能・マネジメントの実際を学び、保健医療福祉チームの一員として多職種との協働について理解する。そのうえで、看護の質向上と継続に向けて看護実践に必要な知識・技術を統合し、対象や場に応じた実践力を修得する。専門職業人としての責任と自己研鑽の必要性を理解する。そのために、チームメンバーと積極的にコミュニケーションをとり、対象の看護実践に必要な知識について自ら学習する態度を身につける。

到達目標

1. 医療施設における看護チームの組織・機能・マネジメントの実際について説明できる。
2. 保健医療福祉チームの一員として、多職種との連携・協働の実際について述べるができる。
3. 看護の継続と質保証に向けて看護実践に必要な知識・技術を統合し、対象(複数)や場に応じた看護を計画し参加できる。
4. 専門職業人として、より質の高い看護実践をめざし自己研鑽を継続する必要性を理解したうえで、看護ケアに参加できる。

**授業の方法**

継続統合看護学実習要項を用いてオリエンテーションを行い、臨地で実習する。

**ICT活用**

状況に応じて、Google Classroomを用いて、実習オリエンテーションや実習記録の指導などを行う。

**実務経験のある教員の教育内容**

看護師としての勤務経験を活かし、看護師としてチームの中で働く場合に求められる専門知識と協働するための能力について、臨床の実習指導者とともに指導を行う。

**課題に対するフィードバックの方法**

状況に応じて、適宜、口頭によるフィードバックを行う。実習記録に対しコメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

<p>第1回</p>	<p>看護実践マネジメント実習要項にしたがい実施する。日程は後日指定する。</p>	<p>関連する授業で使用した教科書、配布資料を見直して理解しておくこと。</p>	<p>実習記録を期日までに作成して提出すること。</p>
<p>担当教員</p>	<p>坂東 奈穂美、水野 愛子</p>		
<p>第2回</p>	<p>なし</p>	<p>なし</p>	<p>なし</p>
<p>担当教員</p>	<p>坂東 奈穂美、水野 愛子</p>		
<p>第3回</p>	<p>なし</p>	<p>なし</p>	<p>なし</p>
<p>担当教員</p>	<p>坂東 奈穂美、水野 愛子</p>		

第4回	なし	なし	なし
担当教員	坂東 奈穂美、水野 愛子		
第5回	なし	なし	なし
担当教員	坂東 奈穂美、水野 愛子		
第6回	なし	なし	なし
担当教員	坂東 奈穂美、水野 愛子		

第7回	なし	なし	なし
担当教員	坂東 奈穂美、水野 愛子		
第8回	なし	なし	なし
担当教員	坂東 奈穂美、水野 愛子		
第9回	なし	なし	なし
担当教員	坂東 奈穂美、水野 愛子		

第10回	なし	なし	なし
担当教員	坂東 奈穂美、水野 愛子		
第11回	なし	なし	なし
担当教員	坂東 奈穂美、水野 愛子		
第12回	なし	なし	なし
担当教員	坂東 奈穂美、水野 愛子		

第13回	なし	なし	なし
担当教員	坂東 奈穂美、水野 愛子		
第14回	なし	なし	なし
担当教員	坂東 奈穂美、水野 愛子		
第15回	なし	なし	なし
担当教員	坂東 奈穂美、水野 愛子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習目標の達成度70% 実習終了後レポート30%
その他	0	
<b>教科書</b>		
なし		
<b>参考文献</b>		

授業の期間内に必要時、提示する。

**履修条件・留意事項等**

主体的に、かつ計画的に取り組むこと。

**備考欄**